

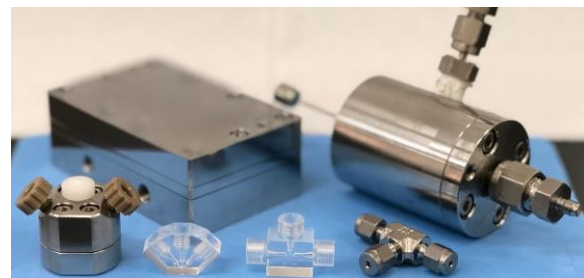
コンパクトフローによりバッチ→連続プロセスを検討。

- ・バッチ反応で取組めなかった反応ルートを視野に。
- ・連続方式で量産技術を確立。

「コンパクトフロー」の特徴

「コンパクトフロー」技術は、様々な単位操作を、化学工学の理論に立ち返って見直し、効率化に直結する要素を際立たせる技術です。その概要を以下に列記します。

高速混合	マイクロミキサーによる迅速混合や狭い流路中での拡散により、バッチの攪拌混合より速い混合が可能
熱制御の容易さ	極小単位である為、熱管理が容易。 また、制御温度帯を狭くできるので副産物の副生抑制可能
流量制御精度	ミリ秒単位での滞留時間調整が可能であり 逐次反応の副反応の抑制や超臨界反応の利用が可能
リスク軽減	化学物質の暴露リスクや環境汚染の低減が可能 微量反応容積による、火災・爆発リスクの大幅低減



コンパクトフローの技術はJNC独自のものです。技術相談などはお気軽にお声がけください！



●コンパクトフローは少量物の連続生成に特化した技術です

少量物であってもバッチプロセスでしか生成できなかった。ロス品も多く、次工程の為の段取りも大変。そういった状況を解決するのがコンパクトフローです。当社は技術交流も積極的に行っていますので、是非ご相談ください。

Topic 1; JNC環境株式会社を吸収合併しました。

当社は2021年4月1日付でJNC環境を吸収合併したことを報告いたします。JNC環境は1993年の設立以来、「自然浄化法リアクターシステム®」をベースに排水処理業を営んできました。この事業をJNCエンジニアリングが継承します。

長年に渡りご愛顧頂いております技術に、石油化学プラントで培ったエンジニアリング技術を合わせることで、より価値の魅力的な技術として皆様に提供すべく取組んで参ります。

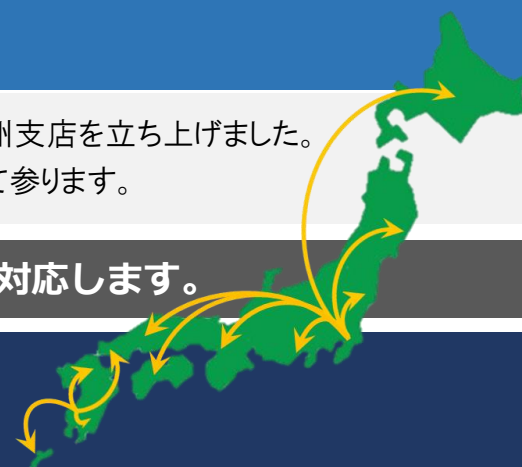


Topic 2; 九州支店を設立しました。

JNCエンジニアリング(株)へのJNC環境(株)の吸収合併に伴い、新たに九州支店を立ち上げました。九州地区のエンジニアリング拠点として、皆様にご愛顧頂ける様に努めて参ります。

九州地方のエンジニアリングブランチとして、ご相談に対応します。

九州、中国地方に工場をお持ちのお客様、ぜひご相談ください。



JNCエンジニアリングのSDGs

当社の取り組み①

当社が取り組む環境・エネルギー事業への挑戦

当社の取り組み②

人材育成 高度プロエンジニア 多能工化の実現

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



JNCエンジニアリングでは、事業活動を通してSDGsの達成に向けた取り組みを行っています。

JNCEの特徴

JNCグループの提案力

JNCグループで培った設計ノウハウ
プラント運営ノウハウを提案します。

プロセス開発サポート

ラボ・研究所ベースからサポートします。
JNCEの成功・失敗経験を貴社開発に。

FEED~基本設計対応

プラントエンジニアリングだからFS時概算設計、
見積仕様書、基本設計から対応可能。

会社情報
問合せ先



JNCエンジニアリング株式会社

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見2丁目3番1号 塚本大千葉ビル 8階
Tel: 043-225-6682 Fax: 043-225-7622 お問合せ担当：営業部 森田



JNCエンジニアリング株式会社

〒260-0015
千葉県千葉市中央区富士見2丁目3番1号 塚本大千葉ビル 8階
Tel: 043-225-6682 Fax: 043-225-7622

ホームページURL : <http://www.jnc-eng.co.jp/index.html> 《「JNCエンジニア」で検索》

《ホームページQRコード》



ご挨拶 JNCエンジニアリングのSDGsへの取り組み

JNCエンジニアリングはプラントエンジニアとして技術を基盤として
インフラ構築・資源循環という事業を通じてSDGsを推進してまいります。

当社はJNCグループのエンジニアリング会社として1965年の創業以来、石油化学プラントの建設を中心に事業を行ってきました。

国際社会が低炭素社会へ移行する中で、事業を通じた気候変動対策および環境保全は経営上の重要課題と認識しています。このグローバル課題に、当社はこれまで培ってきたエンジニアリング技術で炭素循環型社会および環境保全への役割を果たしてまいります。

JNCエンジニアリングは世界的に注目が集まるSDGsに以下の事業活動を通して取り組んでいます。第一の観点として、地球環境に貢献する事業の推進。第二の観点として、事業の推進を通して高度プロフェッショナル人材の育成と世界に貢献する技術の開発を推し進めています。

第一の事業という観点では、今までの石油化学プラントのエンジニアリング事業に加え、今後、地球環境の未来を見据えた環境エネルギー事業を新たな事業の柱として立ち上げるに至りました。具体的には、水力発電所リニューアルや再生可能エネルギーの開発、排水処理技術の展開といった事業へ取り組みです。それら事業への参入を通じ、環境保全へ貢献します。

第二の観点は人材育成・技術開発です。技術力のあるエンジニアを一人でも多く育成し、産業の発展に寄与する技術を開発することで持続可能な開発目標に貢献してまいります。



JNCエンジニアリングにおけるSDGs（持続可能な開発目標）への取り組み

JNCグループでは、「SDGsを世界共通の目標と認識し、企業活動を通じて、その達成に貢献していく」と方針を定めてSDGsへの取り組みを推進しています。

人材育成

JNCエンジニアリングでは専門エンジニアリングの社内教育制度の他、学識者による技術指導、関係会社保全部や他化学メーカーとの技術交流を行っています。様々な分野の知識を踏まえてエンジニアリングできる人材の育成を行います。

資源循環、環境保全に関する技術研究

1. リサイクル技術の開発

JNCエンジニアリングは創設以来数々の石油化学プラントを建設してきました。製造プラントを建設してきた会社の使命として、製品を再生する技術の開発にも挑戦しています。環境や人々の健康に配慮した上で、廃棄物を再生して持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

2. 環境保全に関する技術研究

弊社で取組む排水処理技術「自然浄化法リアクターシステム®」は、処理過程や処理の結果で生じる処理水や汚泥に様々な効能が謳われてきましたが、科学的に解明されていない部分が多く存在します。それらを解明して、海の豊かさや陸の豊かさに繋げる技術として、世の中に広く貢献していきたいと考えております。

JNCエンジニアリングは事業活動を通じて以下の項目に取り組んでいます



社会のインフラをエンジニアリングという側面から支える者の責任として

JNCエンジニアリングは石油化学プラントのエンジニアリングを通じて、社会インフラの構築を行って参りました。今後は、培ってきたエンジニアリング技術を、BCP対応や脱炭素対応など持続可能な社会構築に繋がる様々な分野に応用することで貢献して行きたいと考えております。

当社のSDGsの取り組みのうち資源・環境関連事業と人材育成についてご紹介します

エネルギー・環境事業



水力発電所建設 JNCEはこれまで8発電所の建設・リニューアル工事を行いました。

JNCグループの始まりは明治39年の水力発電事業です。現在、九州エリア内に13カ所の水力発電所を保有し、維持・管理しています。

JNCでは2013年から設備老朽化に伴うリニューアル工事に着手し、当社が元請として、8発電所の設計・工事及び試運転までを行いました。

石油化学プラント事業で培ったエンジニアリング手法を応用し、各種現地調査、FIT 設備認定支援、水理計算、操作・点検計画、ピット計画、無水試験、有水試験等の水力発電所リニューアル特有の業務を行っております。



クリーンエネルギー 再生可能エネルギー関連工事

石油化学プラント建設で培ったエンジニアリング手法を再生可能エネルギー設備の設計、工事に展開しています。

【対応設備】
・太陽光発電 ・バイオガス発電 ・風力発電

【工事实績】
・太陽光発電(300kW~11MW)
・バイオガス発電(50kW)
・木質バイオマス発電(6.5MW) 等



環境保全事業



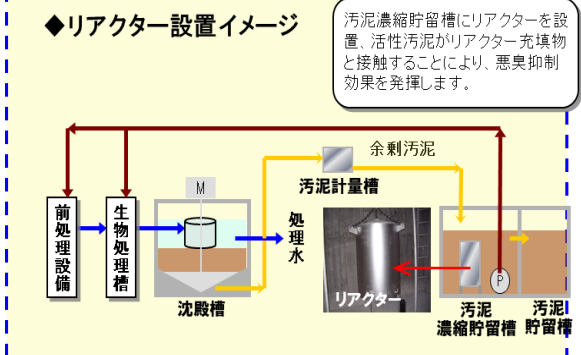
排水処理

独自技術「自然浄化法リアクターシステム®」で既存排水処理設備への小規模改修で処理能力・機能向上を実現します。

自然界では土壌菌群の働きにより有機物が分解され浄化が進みます。これを、人工建造物である排水処理水槽内で行う仕組みが自然浄化法リアクターシステム®です。新設は勿論、既存設備の培養槽設置等の一部改造することでもシステム導入が可能です。

高濃度を無希釈で処理でき、設備をコンパクトにできる特徴があります。また、余剰汚泥(脱水ケーキ)の発生を抑えることができます。

化学工場排水も対応します。



人材開発・技術開発



人材育成方針

柔軟対応を強みにできる多能工化育成方針

「様々な領域を習得することで多能工人材を育成する」、弊社のエンジニア育成方針です。様々な技術や経験を組合わせて新しい価値を創造することがエンジニアリング会社の醍醐味であり、それに欠かせないのが柔軟性を備えた多能工人材です。石油化学プラントや環境エネルギー分野、更にその要素である技術分野を横断して携わる、プロセス開発から建設工事までの一連を縦断して携わる、垣根のない風土で多能工人材育成を行っております。

